



薬を小分けし、飲み忘れを防ぐ「投薬カレンダー」を紹介する沢井康行副会長（いずれも浜松市南区で

かかりつけ薬局

一元管理で
より安全に

薬局にも「かかりつけ」があるらしい。病院に行っても、勧められるまま近くの薬局に駆け込んでばかりで、「かかりつけ」なんて考えたことがなかった。浜松市薬剤師会の沢井康行副会長（左）と菅沼貴仁さん（右）に、薬局を一つに絞るメリットを聞いた。（角野峻也）

「かかりつけ薬局」の最大の特長は、服薬情報の一元管理だということ。同じ効果の薬を重複して服用することを避け、別の医療機関で処方された薬と飲み合わせが悪くないかを確認し、調整してもらえる。信頼できる薬剤師がいれば、健康、介護に関して気軽に相談もできる。飲み残しが多い場合は、薬剤師が医師に飲む頻度の調整や飲み方の変更を掛け合い、飲み残しを減らすよう工夫。有料だが依頼すれば、朝、



数ある薬局から、自分に合ったかかりつけ薬局を見つけるには、どうすればいいのか。沢井副会長が最も重視するのは次の三点だ。

まずは自宅から近いこと。ちょっとした不安でも、すぐに立ち寄れる距離にあつてこ

薬局選びは

必ず持参したいのは、調剤した薬やアレルギー情報



が記入された「お薬手帳」。手帳があれば支払い、旅行や災害時でも、きちんと

ワンポイントアドバイス

「自宅近く」「親身な対応」で

そのかかりつけだ。次に、親身に話を聞いてくれること。軽い雑談も、薬剤師にとっては体質や生活リズムを把握し、飲み忘れの防止などの提案につながるヒントが隠れている。

三点目は、必要に応じて医師に積極的に提案できる薬剤師であること。相談すれば、飲みやすくなるため、薬を粉末から液状に変えるなどの対応も医師に掛け合ってくれる。利用者側も、思ったことを素直に薬剤師に言うのが大事だ。

と自分の薬の情報を伝えることができる。沢井副会長は「薬同士の飲み合わせが悪いと作用を強めたり弱めたりすることもあるので、欠かせない」と利用を勧める。

かかりつけ薬局では、市販薬や健康食品、サプリメントの相談に乗ってくれる所もある。服用する全ての薬を把握し、適切なアドバイスをするのが狙いで、菅沼さんは「処方箋がなくても、気軽に薬局に立ち寄ってほしい」と話す。

調剤する薬剤師。親身になってくれる人を探そう